

# ソフトウェア品質

## PMP®向けのPDU発給について

日本科学技術連盟は、PMI®認定教育プロバイダー（REP）であり、「ソフトウェア品質セミナー、ソフトウェア品質シンポジウム2017」は、PMP®向けのPDUを発給いたします（一部認定申請中）。

2016年11月現在

## 品質意識向上に役立つ入門コース！品質の基礎学習に最適

当セミナーでは、ソフトウェア品質マネジメントについて、「言葉の定義の理解」「基本的な考え方」「現実的なマネジメント方法」といった基礎的なノウハウをわかりやすく学ぶことができます。ソフトウェア品質向上に役立つ教育も体系的に紹介しますので、教育派遣担当者の方の参加もお勧めします。



### 特 徴

- ソフトウェア品質マネジメントの基礎を理解できます。
- 国際標準 (ISO、PMBOK™ など) の紹介も含め、最新の動向を知ることができます。
- 情報サービス業界各社で実際に使用されているプロセスを通して品質管理のノウハウを学べます。
- 当セミナーはオンラインライブ中継でご希望の会場で実施することも可能です。お気軽にお問い合わせください。

### 対 象

- ・あらゆる分野でソフトウェアの開発・生産に従事している技術者・管理者
- ・これからソフトウェア品質マネジメントに携わる方、もう一度基礎から品質マネジメントを習得したい方
- ・教育派遣担当者

### 会 場

東京・日科技連 本部または東高円寺ビル

### 講 師

香村 求 (株)システム SWAT

### 参 加 費

10,800円 (一般/会員)

### カリキュラム～1日コース 9:30～17:00

午前	午後
1. ソフトウェア開発プロジェクトの成功とは	5. プロジェクトマネージャは何をすべきか
2. 品質とは	6. 全社品質管理体制
3. マネジメントとは	7. 知っておいてほしい品質関連の標準知識
4. ソフトウェア開発の特徴	8. ソフトウェア品質向上に役立つ教育のご案内

回数	日程
1	5月22日(月)
2	9月1日(金)
3	1月22日(月)

# ソフトウェア品質技術者初級セミナー

ソフトウェア品質技術者  
資格認定制度 (JCSQE) 対応

(SQiP初級)

SQC

## 当セミナーオリジナル「ソフトウェア品質改善の演習」で教育効果が倍増します！

当セミナーでは、「ソフトウェア品質知識体系ガイド-SQuBOK® ガイダー」に基づいたソフトウェア品質技術を体系的に、短期間で効率的に解説します。「レビュー技法→テスト技法→メトリクス・品質分析→再発防止」の一連の流れでグループ演習をし、「ソフトウェア品質」の実践スキルを身につけることができます。



### 特 徴

- ソフトウェア品質技術を体系的に、短期間で効率的に学べます。
- 「欠陥除去と作り込み防止」に重点を置いて解説します。
- 演習では当セミナーオリジナルの題材を一貫して用います。実務例を題材にして、個人演習からグループ演習にわたって、実践ポイントを理解できます。

### 対 象

- ・ソフトウェア品質に関わるすべての技術者
- ・プロジェクトの一員として開発業務や品質管理業務などを担当したことがある方
- ・技術者・管理者・品質保証担当として次のステップを目指す方

### 会 場

東京・日科技連 東高円寺ビル

### 講 師

辰巳敬三 (元 富士通株)、野中 誠 (東洋大学)、堀田文明 (デバッグ工学研究所)、菅田直美 (日本電気株)、湯本 剛 (日本ヒューレット・パッカー株)、鈴木三紀夫、小池利和 (ヤマハ株)、香村 求 (株)システム SWAT、長谷川 聡 (株)ベリサーブ、真野俊樹 (SQA 総合研究所) 他

### 参 加 費

72,360円 (一般) / 64,800円 (会員)

### カリキュラム～2日間コース

	午前	午後
第1日 9:30～17:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェア品質マネジメント概論</li> <li>品質の考え方、品質のマネジメント</li> <li>・レビュー技法 (演習含む)</li> <li>観点別レビュー、チェックリスト、インスペクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レビュー技法 (演習含む)</li> <li>グループ演習</li> <li>・テスト技法 (演習含む)</li> <li>テストとは、テストケース設計、主要なテスト技法、テストケース作成演習</li> </ul>
第2日 9:30～17:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メトリクス</li> <li>品質分析・評価 (演習含む)</li> <li>定量的管理の意義、プロダクト・プロセス</li> <li>メトリクス、テスト進捗管理、グループ演習 (テスト管理図の見方)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再発防止 (演習含む)</li> <li>バグ原因分析、再発防止、プロセスの改善、グループ演習 (原因分析)</li> </ul>

回数	日程
1	5月24日(水)～25日(木)
2	7月10日(月)～11日(火)
3	10月3日(火)～4日(水)
4	2月6日(火)～7日(水)

ソフトウェア品質データ分析の技法とノウハウを学ぶ

すでにソフトウェアメトリクスを収集している組織にとってもこれからという組織にとっても、収集したメトリクスをどのように分析、活用するかは大きな関心事であり、また悩みも多いのではないのでしょうか。そして、悩みの原因として多いのが、「適切な分析、活用方法を知らない」、書籍などを参考にして分析を試みたものの、「解決したい問題やデータに対してどの手法がマッチしているかわからないため、そこで途方に暮れてしまう」「試しにやってみたものの本当に結果が正しいのか自信が持てない。そのため、分析結果からアクションに結び付けられない」など、結果的に何も変わらない、マネジメントに役立っていないというケースを耳にします。当セミナーでは、ソフトウェア開発の分野で実際に適用されているデータ分析技法、品質管理手法などについて、統計解析ソフトウェアパッケージ「R」を用いたパソコンによる演習を交えて実践的に学びます。実際の現場でのメトリクスを使用して、ソフトウェア開発で各種手法を適用する際の注意点やノウハウなども解説し、これらの悩みを解決していきます。



技法編テキスト

特徴

【基礎編】

- ソフトウェアメトリクスの基礎と理論を体系的に説明します。
- プロダクトとプロセスのメトリクスの両面を取り上げます。
- 単に測るだけでなく、その解釈の仕方や、改善のヒントを解説します。
- JSCQE初級試験のメトリクス関連の内容がよくわかります。

【技法編】

- 「事実に基づく管理」を実践する理由がわかります。
- データという客観的事実を適切に分析し、アクションにつながる分析を行うスキルが身につきます。
- 1人1台パソコンを使用し、演習中心に具体的な分析例を用いて実践的に学べます。
- 『データ指向のソフトウェア品質マネジメント』(2013年度日経品質管理文献賞受賞)をテキストとして使用します。

対象

ソフトウェアメトリクスを品質マネジメント、プロセス改善開発力向上などに役立てたいと考えている方(ソフトウェア開発技術者、品質管理・保証担当者、プロセス改善担当者など)

会場

東京・日科技連 東高円寺ビル

講師

小池利和(ヤマハ株)、小室 睦(株)プロセス分析ラボ)、野中 誠(東洋大学)

参加費

【基礎編(1日間)】  
32,400円(一般) / 27,000円(会員)  
【技法編(2日間)】  
61,560円(一般) / 54,000円(会員)  
【基礎編+技法編(3日間)】  
83,430円(一般) / 73,710円(会員)

回数	日程
1	7月18日(火)~20日(木)

カリキュラム~3日間コース

\*基礎編、技法編、基礎編+技法編の3つの中から選択できます。

		午前	午後
基礎編	第1日 9:30~17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概論 意思決定量的管理の必要性 事実に基づく管理</li> <li>・プロダクトを測る レビューやテストの進捗管理のための結合度、複雑度、凝集度(演習を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロセスを測る プロダクトとプロセスのメトリクス</li> <li>・事例紹介 可視化する事例</li> <li>・総合質疑</li> </ul>
	第2日 9:30~18:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析手法、品質管理手法概論 データ分析手法、品質管理手法の全体像とそれぞれの目的、活用方法を解説</li> <li>・統計パッケージRの基本操作 RおよびRコマンドの基本操作、データハンドリング~グラフ化、基本統計量の出力程度まで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェア開発における品質コスト分析 統計手法の基礎、ヒストグラム、検定 品質管理手法の紹介(品質コスト分析、管理図)</li> </ul>
	第3日 9:30~17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レビューの品質向上のための予測モデルの構築</li> <li>・相関、回帰分析を通して 欠陥、工数、規模の測定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践演習 与えられたデータセットを使って、習得した手法を組み合わせ一連の分析の流れを実践</li> </ul>

QA実践、QMS構築、改善の推進に役立つ！

近年、ソフトウェアの利用分野が広がり、その品質の社会に対する影響度がますます増大する中で、ソフトウェアの品質保証を的確に実施し、品質を確保していくためには、適切なメトリクスの設定とそれに基づく品質データの収集と分析が非常に重要になっています。当セミナーでは、開発の各フェーズにおける実践的なメトリクスの活用について、事例を交えて紹介するとともに演習により、理解の深耕、定着化をはかるので、現場ですぐに実践することができます。

特 徴

- 計画立案から設計・製造・テスト・出荷と、ソフトウェア開発プロジェクトの進行に従った、メトリクスの活用方法(開発計画立案時のデータ活用法、設計段階において最良の設計案を選択する方法、上流工程のレビュー結果に基づく品質把握とテスト工程残存バグ数の予測、適切なテスト実施状況の監視方法、出荷可否判断の方法、弱点モジュールや問題プロセスの見つけ方)を学べます。
- パソコン演習により、理解の深耕、定着化をはかりますので、現場での適用に役立ちます。
- メトリクスを活用したソフトウェア品質システムの事例を紹介しますので、自社のシステム構築、改善に役立ちます。

対 象	ソフトウェア開発の中核として活動する、開発技術者、品質管理技術者、およびプロセス改善推進担当者
会 場	東京・日科技連 東高円寺ビル
講 師	真野俊樹 (SQA 総合研究所)
参 加 費	57,240円 (一般) / 49,680円 (会員)

カリキュラム～2日間コース

回数	日程
1	8月2日(水)～3日(木)
2	1月24日(水)～25日(木)

	午前	午後
第1日 9:30～17:00	1. メトリクスはどのように活用すればいいのか ～いきなり事例！：メトリクスを活用した定量的品質管理の実際～ ソフトウェア品質管理に求められることは、上流工程から一貫した品質管理、品質管理システムの運用、品質管理システムの運用概要、潜在バグの予測、品質管理の実施	バグ分析の実施、工程移行と工程後戻り、潜在バグ予測の見直し、出荷後品質管理・品質管理の進め方 メトリクス活用の演習(品質管理の進め方、データ分析の基本) 2. ソフトウェア品質保証におけるメトリクスの活用 メトリクス活用の前に知っておくべきこと
第2日 9:30～17:00	メトリクス活用の実際(ケーススタディ：開発計画立案時、設計時、設計レビュー実施時、テスト工程時) メトリクス活用の演習(テスト工程でのバグ検出)	メトリクス活用の実際(ケーススタディ：テスト実施時、テストプロセス、出荷判定、年度単位のデータ分析による組織的改善、改善活動の効果は？ 発注会社/担当者の品質レベルはどう評価する?) メトリクス活用の演習(テストにおけるメトリクス活用、出荷可否判定、改善活用の効果)

実践！ソフトウェア品質向上のための技術者セミナー

ソフトウェア品質技術を確実に身につける！品質保証部門の人も設計を知ろう、設計開発部門の人も品質を意識しよう！

演習を中心とした参加型のセミナーです。ソフトウェアを開発する上で、ソフトウェア開発技術、プロジェクト管理技術、品質管理技術など、様々な技術が必要となります。また、ソフトウェア開発における、QCD (Quality : 品質, Cost : コスト, Delivery : 納期) を維持し、改善するために、プロジェクトや組織単位で、継続的に改善活動を実施することも大切です。当セミナーでは、ソフトウェアを開発する上で必要となる基本的な開発技術や管理技術を、演習やディスカッションを交えながら体系的、実践的に習得できます。

特 徴

- ソフトウェア品質管理/品質保証の考え方および品質改善の方法を学べます。
- 要求開発から検査までの各工程におけるソフトウェア開発技術について学び、演習によりそれらの具体的な活用方法を習得できます。
- 理論だけでなく、実践的事例を盛り込んだテキストを使用します。

対 象	あらゆる分野でソフトウェアの開発・生産に従事している技術者・プロジェクトリーダー・SE、ソフトウェア設計・開発をひととおり経験し、今後さらに高いレベルを目指す方
会 場	東京・日科技連 東高円寺ビル
講 師	阪本太志 (株東芝)、小井土 亨 (株OSK)、湯本 剛 (日本ヒューレット・パカード(株))、板倉 稔 (株イネーブルトリー)、小池利和 (ヤマハ(株))、真野俊樹 (SQA 総合研究所)
参 加 費	135,000円 (一般) / 118,800円 (会員)

無料オプション！

オブジェクト指向設計に不慣れな方を対象に「補講」を実施する予定です。設計の基礎知識を、より詳しく習得できます。

カリキュラム～6日間コース (前期・後期各3日間)

	前期	後期
第1日 9:30～17:00	ソフトウェアの品質保証の基本	第4日 9:30～17:00 品質を追求した設計
第2日 9:30～17:00	レビュー技法	第5日 9:30～17:00 品質向上のためのソフトウェアテスト
第3日 9:30～17:00	ソフトウェア要求	第6日 9:30～17:00 開発プロセスの改善

回数	日程
1	前期 10月17日(火)～19日(木)
	後期 11月28日(火)～30日(木)



一流のマネジメントスキルを学ぶ

品質は経営において2つの意味で重要です。

(1) 経営の目的は製品・サービスを通じた顧客価値提供にあり、品質はその提供価値に対する顧客の評価であること。

(2) 品質のためのマネジメントの思想と方法論は、経営の目的達成のために広く適用できる優れた方法論であること。

当セミナーでは短期間で管理者として必要なソフトウェアの品質マネジメントの基本的考え方や、プロジェクトマネジメントの進め方について学びます。

特 徴

- 管理者としてのソフトウェアの品質マネジメントのポイントを習得できます。
- プロジェクトマネジメントについて、管理者としての役割や進め方を理解できます。
- 管理者として必須のスキルである「問題解決力」を習得できます。

対 象

各分野においてソフトウェア開発に従事している部門の管理者（部課長クラス）およびプロジェクトリーダー

会 場

東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師

奈良隆正 (NARA コンサルティング)  
金子龍三 (株)プロセスネットワーク  
香村 求 (株)システム SWAT

参 加 費

59,400円 (一般) / 51,840円 (会員)

カリキュラム～2日間コース

	午前	午後
第1日 9:30～17:00	ソフトウェアの品質マネジメント	管理者としてのプロジェクトマネジメントの進め方
第2日 9:30～16:30	管理者としての問題発見力向上	一流の管理者になるために必須のマネジメント能力

回数	日程
1	6月21日(水)～22日(木)

実践！プロジェクトマネジメントセミナー

PMエキスパート直伝！

プロジェクトマネジメントを具体的にどう推進すればいいのだろうかとお悩みの方、これからプロジェクトマネジメントを行う方、プロジェクトリーダーを体験したがうまくできなかったという方へおすすめします。

特 徴

- 実例を中心に、より実践的にプロジェクトマネジメントを学びます。
- プロジェクト計画の策定、実施についてのノウハウを実務レベルで学びます。
- ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントについても事例を交えながら学びます。
- プロジェクトを成功させたいリーダー必見です。

対 象

プロジェクトリーダーまたはプロジェクトリーダーをめざす方、プロジェクトリーダーの立場でお困りの方

会 場

東京・日科技連 東高円寺ビル

講 師

香村 求 (株)システム SWAT  
金子龍三 (株)プロセスネットワーク  
岡村孝彦 (株)NTTデータアイ

参 加 費

52,920円 (一般) / 45,360円 (会員)

カリキュラム～2日間コース

	午前	午後
第1日 9:20～17:15	オリエンテーション 現実のプロジェクトマネジメント －失敗事例を中心とした課題の提起－	プロジェクト計画の策定 実践的管理の方法
第2日 9:15～17:15	プロジェクトのヒューマンファクター －人的資源／コミュニケーション・マネジメントを中心に－ プロジェクトリーダーの育成 CCPM入門(クリティカルチェーンプロジェクトマネジメント)	ソフトウェア開発におけるPM事例(組み込み、小規模、IT) 本セミナーのまとめ 演習の回答と総合質疑

回数	日程
1	6月6日(火)～7日(水)

## 「技術的視点」と「マネジメント的視点」から原因分析技術を習得！

当セミナーでは、ソフトウェア、ハードウェアという区分ではなく、担当業務によって適した原因分析方法が異なることを注意喚起し、原因分析技術の使い分けについて説明します。原因分析技術の基礎・基本から、障害発生など過去の体験をもとにケーススタディを行い、「技術的視点」と「マネジメント的視点」の2つの観点から再発防止策・未然防止策を探ることができます。

### 特徴

- 問題発生の原因、問題の構造、対応策などについて理論、実践の両面からわかりやすく学べます。
- 分析する対象とその特徴について、どの場面でのどの分析技術を活用するか、講義とケーススタディを通じて習得することができます。

### 対象

- ・各分野におけるソフトウェア開発、システム開発の実務者・管理者レベルの方
- ・品質保証部門のリーダークラスの方

### 会場

東京・日科技連 東高円寺ビル

### 講師

金子龍三 (株)プロセスネットワーク  
田村泰彦 (株)構造化知識研究所

### 参加費

52,920円 (一般) / 45,360円 (会員)

### カリキュラム～2日間コース

	午前	午後
第1日 9:20～17:00	1. 原因分析の基礎・基本 2. 原因分析手法の紹介 ・トラブルシューティング	・なぜなぜ分析 ・プロセスネットワーク分析(PNA)法 3. 個人演習
第2日 9:30～16:30	4. 特別講義 ・どの場面でのどのような手法を使うのか ・原因分析の内容を次工程で活かすには ・知識の再利用、一般化するには	5. ケーススタディ(GD) 学んだ手法を活用し、実際のケースで原因分析を行い、再発防止策を考える 6. 質疑応答(Q&A) 7. 実際例を用いてのセミナー終了後のフォローアップ

回数	日程
1	6月19日(月)～20日(火)
2	11月20日(月)～21日(火)

# 現場で効果をあげる「ソフトウェア品質会計」の適用方法 (初級)

## NECの高品質ソフトウェア開発を支える品質保証術を習得！

「ソフトウェア品質会計」とは、NECにおいて長年取り組まれているソフトウェア品質管理手法です。全体品質を担保するための基本的な考え方であり、現場・現実・現物を重視している点が大きな特徴です。ソフトウェア品質製造工程までに作り込んだバグを「負債」とし、レビューやテストにより、負債を返済(摘出)して、負債(残バグ)が0になった時点で出荷するという手法を用いています。

「ソフトウェア品質会計」は、書籍としても発行され広く公開されていますが、セミナー化を望む多くの声を受け、セミナーを開催することになりました。各企業のソフトウェア品質の向上のため、当セミナーの参加をおすすめします。

### 特徴

- ソフトウェアの品質管理手法である「品質会計」について、現場での適用を想定した使い方を、講義と演習を通して習得します。
- ソフトウェア開発技術者が、ソフトウェア開発プロジェクトの自担当部分に対して、品質の良し悪しを判断できるようになります。
- 書籍『ソフトウェア品質会計』(菅田直美著、日科技連出版社発行)を配付します。

### 対象

ソフトウェア開発技術者の経験を1～2年程度お持ちの方

### 会場

東京・会場未定

### 講師

菅田直美 (日本電気株)

### 参加費

43,200円 (一般/会員) \*前年度実績

### カリキュラム～1日コース

9:00～16:30

午前	午後
1. 品質会計とは 2. 上工程品質会計の実際 3. グループ演習：工程移行判定	4. テスト工程品質会計の実際 5. グループ演習 テスト終盤に発生したバグのバグ分析

回数	日程
1	6月
2	9月
3	12月
4	1月

\*当セミナーは日科技連とNECマネジメントパートナー(株)との共催事業です。

\*当セミナーは申込み、キャンセルについて以下の内容が異なりますのでご注意ください。

- ・申込締切日は8営業日前となり、開催通知は開講の1～2週間前に送付いたします。
- ・キャンセルポリシーは以下の通りです。

- ①当該教育研修コース開始日を起算日として5営業日前までの受講者キャンセルについては、キャンセル料は一切発生しません。
- ②①以降のキャンセルについては、参加費の100%のキャンセル料が発生します。

\*日程は決まり次第ホームページへ掲載します。

## 直交表を活用した網羅率100%のテスト設計

組み込みソフトを持つ製品において、ソフトウェアやシステム開発時における品質の重要性が非常に高くなってきており、テストや試験の抜け落ちが製品の重大な品質事故につながるケースが発生しています。しかしながら、ソフトウェア開発時において、網羅性の高いテストを行うには無限の組み合わせが必要で、それを満たすにはシステムテストの知識だけでは難しいのが現状です。当セミナーでは、直交表を活用することで、効果的、効率的にテスト設計を行い、最小限で網羅性の高い組み合わせテスト設計方法を学べます。また、理論を最小限にし、演習を通じて試験方法を学ぶため、すぐに実務に役立ちます。初めて学ぶ方から実践力をつけたい方まで幅広い方々に最適なセミナーです。

## 特 徴

- 直交表を活用した効果的なテスト設計をやさしく学べます。
- 組み込みソフトを持つ製品を対象とした確実な試験方法を習得できます。
- 演習により、すぐに実務に役立つ内容です。
- 開発時のバグ取り試験の抜け落ちによるクレーム発生の防止に最適なコースです。

## 対 象

システムテストの計画者、組み込みソフトを持つ製品の開発者

## 会 場

大阪・日科技連 大阪事務所

## 講 師

浜田佐敏(元 ㈱日立製作所)

## 参 加 費

63,720円(一般) / 56,160円(会員)  
\*割り付けソフト付

## カリキュラム～2日間コース

第1日 9:30～17:30	何のためにシステム試験を行うか システム試験の概要 試験によるバグの発生形態	網羅試験の作成方法 直交表を用いた試験計画 直交表を用いた試験計画作成演習①
第2日 9:00～17:00	直交表を用いた試験計画作成演習② 試験結果の解析・演習 直交表の種類と多水準因子の作成	実務への適時の注意点 因子の決定時のポイント まとめ

回数	日程
1	6月15日(木)～16日(金)

## 清水吉男のXDDP 導入・活用による開発プロセスの改善セミナー

(XDDP実践)

SQC

## XDDPを活用した品質と生産性の劇的改善の実践ノウハウ

派生開発の場面において効果的なプロセスを提供している派生開発専用の開発アプローチ「XDDP (eXtreme Derivative Development Process)」は「USDM (Universal Specification Describing Manner)」という要求の仕様化の方法と「PFD (Process Flow Diagram)」という要求にマッチするプロセスを自在に設計する方法の支援を受ける形で構成されており、多様な要求に対応することができます。実際、これまで多くの現場においてその効果は確認されています。

当セミナーでは、品質関係部門の方々にこのXDDPの導入をプロセス改善活動と組み合わせることで劇的な成果につなげる方法を、XDDP生みの親である清水吉男先生が伝授します。

## 特 徴

- XDDPを活用して、開発プロセスを変化させることができます。
- XDDPの導入障壁となっている“組織標準プロセス”を見直すきっかけとすることができます。
- 1人1台パソコンを使用し、演習を交えて実践的に学べます。

## 対 象

・XDDPを導入している企業・組織の方  
・XDDPの導入を検討している企業・組織の方  
・プロジェクトにおいてプロセスの保証を担当している方

\*大きな成果を生み出すためには、1社から品質部門と設計部門の両担当者の参加が効果的です。

## 会 場

東京・日科技連 東高円寺ビル

## 講 師

清水吉男(㈱システムクリエイツ)

## 参 加 費

61,560円(一般) / 54,000円(会員)

## カリキュラム～2日間コース

	午前	午後
第1日 10:00～17:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混乱する派生開発／派生開発の特徴とプロセスの実態</li> <li>・プロセス改善の意味と現状</li> <li>・派生開発におけるプロセス改善の意義 (組織標準のあり方／派生開発のプロセス改善の効果)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・XDDPの復習 (標準的派生開発アプローチ／追加機能要求仕様／変更要求仕様を含む変更3点セット)</li> <li>・USDMの効果を実感してみよう</li> </ul>
第2日 9:30～17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派生開発におけるプロセスの保証</li> <li>・PFDを読む／プロセスの定義から設計へ</li> <li>・変化を安定させる意味</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PFDによるプロセスの評価ポイント (PFDで何がわかるのか?)</li> <li>・XDDPプロセスを設計してみよう (PFDを使ってXDDPによるプロセスを設計する)</li> </ul>

**テスト技術を体系的に習得！ JSTQB 試験対策としても有効！**

当コースでは、企業や組織の枠を超えたソフトウェアテストの基本的な手法や技法を、国際的に普及している ISTQB のシラバスに基づいて、効率的に学習できます。

ソフトウェアは今や社会インフラ基盤を構築する重要な存在であり、ソフトウェアに起因する品質事故は、社会問題を引き起こします。ソフトウェアの品質確保は、ソフトウェア産業にとって社会的責任とも言えます。品質確保のための重要な技術としてソフトウェアテストがありますが、ソフトウェア技術者全員のテスト技術を向上させなくては品質はよくなりません。

ソフトウェア業界全体で技術力を向上する手段の一つに、JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board) 資格認定制度があります (p.128 参照)。当コースを修了された参加者には、1 年間有効の受験料割引のバウチャーを発行します。

多くの方々の受講をお待ちしています。

JSTQB のテスト技術者資格は、ISTQB (International Software Testing Qualifications Board) を通じて、アメリカやイギリス、ドイツなどの ISTQB 連携のテスト技術者資格と相互認証を行っています。日本科学技術連盟は主催団体である JSTQB とパートナーシップを結んでおり、資格認定試験を実施しています。

**特 徴**

- ISTQB FL に基づいたソフトウェアテストの基本的な手法や技法が習得できます。
- ソフトウェアテストの基礎的な用語を理解し、自身のプロジェクトへ適用できるようになります。
- JSTQB FL 試験対策として有効です。

回数	日程
1	5月16日(火)～18日(木)
2	11月14日(火)～16日(木)

**対 象**

- ・ソフトウェアテストの手法や技法の基礎知識を身につけたい方
- ・ISTQB-FL レベル資格認定取得に取り組みたい方

\*開発者、テスト担当者、品質管理担当者、マネージャなど幅広い層が対象です。また、ユーザ(発注者)の立場として、一般的なソフトウェアテストの知識が必要となっている方も対象となります。

**会 場**

東京・日科技連 東高円寺ビル

**講 師**

JSTQB 公認トレーニングコースインストラクター  
松木晋祐(株ベリサーブ)、山崎 崇(株ベリサーブ)、  
小山竜治

**参 加 費**

108,000円(一般) / 102,600円(会員)

**カリキュラム～3日間コース**

	午前	午後
第1日 9:30～18:00	テストの基礎/テストの必要性/テストとは何か?/テストの7原則/基本的なテストプロセス/テストの心理学/行動規範	ソフトウェアライフサイクルを通じてのテスト/ソフトウェア開発モデル/テストのレベル/テストの種類(タイプ): テストのターゲット/保守テスト/静的技法/静的技法とテストプロセス/レビュープロセス/ツールによる静的解析
第2日 9:30～18:00	テスト設計技法/テスト開発プロセス/テスト設計技法のカテゴリ/仕様ベース、ブラックボックスのテスト技法	構造ベース、ホワイトボックスのテスト技法/経験ベースのテスト技法/テスト技法の選択
第3日 9:30～17:00	テストのマネジメント/テスト組織/テスト計画作業と見積り	テスト進捗のモニタリングとコントロール/構成管理/リスクとテスト/インシデント管理/テスト支援ツール/テストツールの種類/ツールの効果的な使い方: 利点とリスク/組織へのツールの導入